

2012.11.05

「石原新党・たち日は自民党に合流すべきだ。」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は11月5日です。先日、京都ホテルオークラで、維新の会の橋下氏、また、石原氏、平沼氏の3人が集まって会談がなされました。実は、この京都ホテルオークラは長州藩の京都の藩屋敷の跡地に建設されております。まさに維新ということでありまして、長州藩木戸孝允に倣い、日本を改革していこうということでこの地で会談をしたのではないのでしょうか。しかしながら、結果は物別れに終わってしまいました。

このことは当然のことではないかと考えております。維新の会は「維新」という名称を用いています。明治維新になぞらえて日本を根底から様々な改革をするのだ、という事に対する期待感が世間には多いようですが、改革する方向がどのような方向なのかが分からなければ、いくら改革を連呼しても前に進みません。ここ20年間の日本は改革騒動の中で国力を落としていったのですから、むしろ、改革の中身を議論しなければなりません。重要なのは日本の何が問題かということであり、どこを改革しなければならないかという議論にあたっては、国家観や歴史観が必要不可欠であって、簡単に「改革、改革」と言っていられないはずです。ところが、維新の船中八策などを見てみますと、そのような歴史観や国家観が皆目感じられません。ですから、このような方々と議論したところで、ほとんど実りのあるものは得られないというのが常識的に考

えられるのです。

一方、石原氏は国会議員だった当時から、日本の戦後体制批判をされてきた方です。私と同じように、今の憲法は破棄するべきだ、とおっしゃっています。一方で、東京都知事を務められてきたからでしょうか、国の権限を地方に委ねるべきだ、という趣旨の御発言が多いのです。これには疑問があります。東京のような大都市にとっては、財源も権限も大きく、委譲されるほどメリットが大きいというのはわかります。しかし、日本の各地方が東京のような条件を持っているわけではありません。東京のような大都市に財源や権限を与えてしまうと、弱小の都市部では十分な財源を確保できず、権限も行使できません。日本全体の発展を考えると、国が責任を持って、財源の再配分を行う必要があるのです。そうしなければ、日本全体がまともに機能できなくなってしまうのです。放っておくと、都市部にしか人は住めなくなり、郡部から都市に人口が集中します。その結果、大震災が起きた時には都市に大きな打撃を与え、その損失は計り知れないものになります。日本各地に分散して居住していた方が、よりよい国づくりが出来るのです。離島等の郡部に人が住まなくなると、外国人による土地買い占めが起きますし、そこに外国人の集住といった動きが起きれば、実質上日本の国は崩壊の危機にさらされることになります。国と地方という関係からみましても、国がしっかりと財源と権限を持ち、地方に上手く分け与えていく、というほうがよいのです。この部分で石原氏とは根本的に意見が

異なるのですが、少なくとも歴史観は、石原氏は正しいものを持っている方だと思います。

平沼氏に関しては、自民党が下野した際、何としても自民党に戻ってきていただき、自民党総裁として国政奪還に向けてやっていただきたい、と私は思っていました。そもそも、郵政民営化を象徴とする構造改革論が日本を衰退させた最大の原因だと思います。これに真っ向から反対した平沼氏に自民党の党首になっていただくことが、日本の再生に大事なことだと考え、私は平沼氏のもとに日参してお願いしました。残念ながら、以前にもお話ししたように、これは叶いませんでした。そういう意味で言いますと、平沼先生と私は非常に考えが近いのです。

このように考えてきますと、橋本氏率いる日本維新の会と平沼氏、石原氏は似ているようですが、根本的に違うのです。平沼氏と私の考える政策が同じだという事を考えると、日本維新の会とはとても意見が合いません。橋本氏自身も、石原氏とは協力したいが、平沼氏と組むことには消極的である旨の発言をしています。政策が異なりますから、三者が話し合っても、結局は実りのある議論は出来ないということなのです。選挙の際に広告塔としてこの三人が前面に出ることは、国民に大きなインパクトを与えたいと思います。ですが、政策としてお互いに折り合いをつけるのは無理だと思います。歴史観や国家観をしっかりと持っている方と持っていない方では意見が一致するわけがない

のです。

特に、日本維新の会は現在の国の形を好ましく思っていないようで、首相公選制や一院制等など、国の形を平気で替えるような政策を打ちたてます。これは非常に危険な考え方だと思います。私も今の日本の現状が良いとは決して思っておりません。しかし、制度に原因があること以上に、戦後政治自体が政治として成立していなかったのです。自分の国を自分で守る、そのために政治はありとあらゆることをしなければなりません。しかし、今の政治の仕組みはそれをせずに、憲法の範囲内で、もっといえば平和主義、自由と平等、人権という戦後の価値が大事で、その仕組みの中で物事を解決しようとする。世界の国は自分の国が生き残るために何をしなければならないか、という国家の安全保障が一番の目的で、他のもの、例えば価値観は全て手段として使っていくのです。ところが、日本では自分の国を生き延びさせるという目的がどこにもなく、本来手段であったり方便だったりする価値が最大の目的になってきているのです。そのために、政治はきれいごとばかり言い、空回りし、現実の問題をともに論じることが出来ない。憲法はその一つの象徴だったのです。そういう大きな歴史観、国家観を持って現実の政治を見ていくと、物事の問題点がどこにあるか、ということが見えてくるのです。

しかし、今の維新の会の皆様方にはその大きな歴史観、国家観がないのです。このことは私の週刊西田の中でも、京都大学の藤井聡教授と一ヶ月間にわたり、

そうした日本維新の会の問題点について述べています。維新の問題点というよりも、戦後日本人の抱えている問題点、マスコミが主導してきた改革話自体の中に問題点があるのです。今回、石原氏ら三者で第三局を作ろうという動きがありますが、結局は第三局になれないものだと思います。問題意識を共有していない以上、まとまらないのです。

自民党は安倍総裁を迎え、政権奪還に向けて動き出しているのですが、本当は平沼、石原氏ともに、日本維新の会と比べても自民党との差異のほうが小さいはずなのです。協力関係を築くなら、日本維新の会ではなく、自民党と築くべきなのです。同じ理念のもの同士で協力していく方が正しいことではないでしょうか。国民の皆様方もそのように思われるのではないかと、思います。今日は京都で三党首の会談がありましたが、まとまることはないだろうし、まとまるとしても日本維新の会ではなく、自民党と合流していただくほうが正しいのです。このことをお伝えいたしまして、本日のビデオレターを終わります。今日も御覧になっていただき、ありがとうございました。